

資本主義は社会主義に必ず変わる

『空想より科学へ社会主義の発展』に学ぶ

第11回 東京ブロック

社会主義は歴史的必然

司会 Ⅱいよいよテキスト学習は最後になります。今回も東部協のレポート報告を受けて討論に入ります。

資本家もまたその社会的機能を失う

K B Ⅱ資本主義における恐慌は、ブルジョアジーには近代的生産力をこれ以上管理する力がないことを暴露しました。同様に、大規模な生産や交通機関が、株式会社やトラストや国有に転化する事は、ブルジョアジーが不要であることを示すものとなっています。しかし、恐慌は産業の国有化では解決できない業病です。株式会社やトラス

トに、国有化されたとしても、生産力の資本的性質は廃棄されないからです。近代国家はどんな形態をとろうとも、本質的には資本主義の機関であり、資本家の国家、観念としての全資本家です。

解決は生産方法の

社会的性質の承認にある

この解決は、近代的生産の社会的性質を実際に承認すること、言い換えれば、生産方法、取得方法、および交換方法を生産手段の社会的性格に調和させることです。そして、そのためには

社会においてはほかにそれを管理するものがないまでに成長している生産力を、社会が公然かつ直接に所有することが必要です。生産方法および生産物の社会的性質は、現在でこそ生産者自身に刃向かい、生産方法および交換方法を周期的に破壊します。それはただ強力に破壊的に作用する盲目的な自然法則にすぎませんが、このことが行われると、生産手段および生産物の社会的性格は、生産者によって十分意識的に利用されるようになります。混乱や周期的破壊の原因ではなくなり、代って生産そのものの最も強力な楯^{うたか}（て

◆みんなの学習講座

こ)となります。

司会IIさて、重要なレポートの中味が提起されています。先ず質問を受けていきましょう。

S K II まず恐慌について聞きたいのですが、いつごろから現われるようになったのか、なぜ恐慌が必然的に発生するのかについて説明してください。

K B II それは、先月号で学習しましたが、エンゲルスのイギリス資本主義発展の研究では、恐慌は1825年に始めて発生し、その後10年周期に発生します。1877年恐慌まで5回起こっています。その後、恐慌はほぼ19世紀末まで長期不況に陥ります。恐慌発生の必然性は、前回学習したように、資本主義的生産における「過剰生産」によるものです。機械・技術的変革により生産力も革命的に成長します。具体的には生産と消費の矛盾が起こるからです。勿論市場問題もあります。H G II しかし、なぜ長期不況が起こ

たのでしょうか。

K B II それは、独占の発生を考えなければなりません。トラストや株式会社などによって恐慌を回避しようとする資本による彌方策びりさくが生まれたと考ええます。

G T II もう一つ、本文の「近代的生産の社会的性質を実際に承認すること」とありますがそれは、プロレタリアが生産手段、生産物の真の所有者になることでしょうか。

司会II その通りと考えます。ここまではMさんに、いままでの議論を大まかまとめてもらいます。

M II 株式会社やトラスト・国有化することによって、資本家は社会的機能を失うこととなります。それは、一資本家はもう用をなさない。

だが、資本主義生産は継続しているわけだから、その資本主義的生産方法を変えない限り、ブルジョアジーとプロレタリアートとの階級対立・闘争は

なくならない。

生産手段を社会的所有にしなければ根本的矛盾の解決にはならないということです。

O K II 過剰生産恐慌についてはフリーエも捉えています。78頁最後から数行で述べられています。フリーエは解決方法を見出せなかった。だが、資本家たちは手をこまねいていたわけがなく、どうやったら恐慌を回避できるか、真剣に相談し考え、一つは株式会社、トラスト、共有の国有化として、社会的機能を失うことになった、と。

司会II 社会的機能を失うことになれば、資本家はいよいよ生産手段を社会的所有にしなければ、根本的矛盾の解決にならないというところまで、追い詰められます。

次ぎにどなたか一例を述べてください。

H T II 80頁にはイギリスの例が出ています。1890年のアルカリ生産



1873年恐慌

(石鹼)が48の大工場全部を合併し、統一的に運営されている単一の会社の手で経営されています。

OKII Mさんに先ほどまとめてもらった内容を一部訂正する必要があります。恐慌を回避するために、株式会社やトラスト、国有化したのが、「近代的生産力をこれ以上管理する力がないことを暴露しました」をどう理解するかです。Mさんは、一資本家はもう用済み、としたがそうではないでしょう。ブルジョアジーそのものが生産の管理ができ

なくなることを言っているからです。「解決は生産方法の社会的性質の承認にある」の部分です。

HGII前節はブルジョアジー側から見た、次節はプロレタリアート側から見た内容ですね。

OKII次の「われわれが生産力を支配することができ」の項では、資本主義的生産方法に変わって、生産手段の私的所有から社会的所有にすることによって、プロレタリアートが管理・支配することができるとまとめています。

司会IIそうですね。先に進めましょう。続いてレポート報告をお願いします。

われわれが生産力を

支配することができ

KBII今日の生産力について、考える時、社会的生産の無政府状態に代わって、全体および各人の必要に応じた社会的に計画的な生産の規律が生まれま

す。こうして生産物がまず初めに生産者を、ついで取得者をも奴隷化した資本主義的取得方法の代わりに、近代的生産手段の性質そのものに基いて作られた生産物の取得方法ができあがりません。それは一方では生産を維持し拡大するための手段としての直接的な社会的な取得であり、他方では、生活および享樂の手段としての直接的な個人的取得です。

国家の廃止と死滅

KBII続いて、従来の社会は、階級対立のうちに動いてきたので、国家を必要としました。国家というのは、支配する者が被支配者を支配するための道具です。そのため国家にとってまず必要なものは軍隊、警察、監獄などの強制機構であって強制規範としての法律です。国家がそういうものであったのは、それぞれの時代に全社会を自ら代表していた階級のそれであつた限りに

◆みんなの学習講座



民営化以前、旧国鉄

おいてでした。

国家がいつの日か社会全体の本当の代表者となるならば、そのときそれは無用物となります。抑圧すべきいかなる社会階級も存在しなくなり、階級支配と従来の生産の無政府状態に立脚する個人の生存競争が無くなれば、そしてこれから生ずる衝突と逸脱とが無くなれば、抑圧しなくてはならぬものはないのです。国家は「廃止」されるのではない、死滅するのです。

司会IIありがとうございます。これからは、生産力の支配がプロレタリアに可能である、ということに併せて、「国家の廃止でなく死滅」というところに焦点を絞り質問を受けていきます。SKIIここでは、生産の国有化ではなく、「生産力の国有」と言っています。どういう意味ですか。

KBII冒頭に、「観念としての全資本家です」とあります。これは資本家に都合の良い国有化ではないですか。SKII資本主義は生産力を発展させていく、国有化するということは制御することになると考えられないですか。HGII制御というよりは、自由競争を少し制限することにはなるでしょう。SKIIそうなるとう生産力が落ち込む停滞することはあるね。

MIIしかし、生産力は停滞しない。SKIIそうだけど・・・。OKII生産力の国有化、例えば、国鉄、郵政、電電公社など3公社5現業がな

ぜ、今、分割民営化されたのか、どう思いますか。

HGIIそれは後々の問題でしょう。エングルスやマルクスが分析した資本主義は自由競争を前提にしたものだったのですから。

OKII違います。同じことです。日本の場合には明治維新以降ですが、鉄道にしても、郵便、電話・通信も日本の資本主義を発展させるために国有化しました。それを今度は分割民営化し、民間資本の活動の場へとしました。

司会II少し議論を進めるに当って、問題点の整理をしておきましょう。OKIIさんの考えでは、生産力の国有化とその後、新自由主義段階で進められた民営化の問題が同じことだといえます。

しかし、ここでは、つまり『空想より科学へ』では、あくまでも経済分析を行う際にその時代にあつた科学的経済分析を基にしています。その辺を整理したうえで議論を進めてください。

MⅡ当時の経済的事情では、世界市場の占有、生産力競争に打ち勝つためには資本力が不足していたため、国家に資本の肩代わり、代行してもらう必要性があつたということですね。

司会Ⅱ鉄道などの国有化は理解できませんが、その他の企業を「トラスト」化したのはなぜかです。

HⅡ国家の役割はこれまで学んだように、階級社会では、少数の支配者階級が多数の被支配者階級を支配するための抑圧機関であつたが、封建社会から資本主義社会へ変わった「自由主義段階」の初期は自由競争を繰り返して、前回やつたように「恐慌」が発生します。この恐慌は資本主義の業病です。この恐慌回避の一つの手段として、「トラスト」を作り生産をコントロールし、価格を市場に押し付けたが結局はうまくいかなかつた。先ほどレポーターのKBさんが言われましたが、彌方策であつても資本主義を延命させる

ための手段だつたといえますね。

恐慌は資本にとつても大変なことだが労働者階級も職を失い、生活基盤がなくなるから階級闘争は必然的に起こり、資本主義の危機が深化します。資本はだからこそ恐慌を恐れおののいたのです。

いまや社会主義は歴史的必然である

KBⅡ一切の生産手段を社会が没収するということは、資本主義の生産方法が歴史上に現れて以来、個人により、また学派によつて未来の理想として夢想されたことでした。しかしその実現のためには一定の経済的条件がなくてはなりません。既に学んできたように、啓蒙主義の限界と空想的社会主義者の良心もここに限界がありました。社会発展の原動力は生産力と生産関係の矛盾ですが、その矛盾は階級闘争によつて解決されます。しかし自動的には解決されません。人間が歴史発展の法則

を把握し、その行動に転化することによつてはじめて解決されます。

その基礎は階級の分裂である

KBⅡ階級分裂はある一定の歴史的根拠を持つものですが、それはただある一定の期間内において、与えられた歴史的条件の下においてでのことで、近代的生産力が充分に発展すれば一掃されます。階級の廃止は一つの歴史的発展段階であり、この段階になれば、ブルジョアジーの政治的および知識的破産は、彼ら自身にもはやほとんど秘密ではありえないし、彼らの経済的破産は規則正しく10年ごとに繰り返されています。恐慌のたびごとにかかる生産手段の膨張力は、資本主義的生産方法が自分自身にはめた桎梏しごく（あしかせ）を打ち破ります。生産方法がこのように解放されることは、生産力がますます急速に発展していくための、また生産そのものが本当に無制限に拡大



ロシア革命

していくための唯一の前提条件です。

社会主義とは計画生産である

K B II 社会による生産手段の没収とともに商品生産は除去されて、したがって生産者に対する生産物の支配も除去されます。社会的生産の内部における無政府状態に代わって計画的意識的な組織が現れます。個人の生存競争は消滅します。かくして初めて人間は動物

界から決定的に区別され動物的生存条件を脱し真に人間的なそれに入ります。

歴史的発展の概括

K B II プロレタリア革命とは、矛盾の解決、すなわちプロレタリアートが公共的権力を掌握し、この権力によってブルジョアジーの手から離れ落ちつつある社会的生産手段を公共所有物に転化します。プロレタリアートは資本という性質から生産手段を開放して、生産手段の社会的性質に完全な自由を与えます。社会的生産の無政府状態が消滅するにつれて国家の政治権力も衰え、人間はついに人社会的組織の主人となつたわけであつて、これにより、また自然の主人となり、自分自身の主人となります。要するに自由となります。M II 「社会主義は必然だ」と言われるが、実家のりんごは秋には熟してきます。社会主義社会は必然の法則だが黙って観ているだけではなりませんよね。

O K II 自然科学の法則と社会科学の法則との違いであるといえると考えます。人間は実践を以て社会を変えようということ、マルクスそしてエンゲルスが明らかにした最初の人でした。

T K II エンゲルスは、『空想より科学へ』の最後で、これまで学んできた私たちがの総括の視点および行動指針を明示されています。引用すると、

「この解放事業を成し遂げること、これが近代プロレタリアートの歴史的使命である。この事業の歴史的条件とその性質そのものを探求し、以てこれを遂行する使命をもつ今日の被抑圧階級に、彼ら自身の行動の条件および性質を意識させること、これがプロレタリア運動の理論的表現である科学的社会主義の任務である」と。

司会 II これでテキスト学習は終了とします。一年間の学習会を踏まえて、総まとめとして次回は座談会を行います。